

福島県立医科大学附属病院における年末年始期間中の
救急患者取扱状況について

公立大学法人福島県立医科大学附属病院
病院長 菊地 臣一

年末年始期間中の高次救急センターの運営体制及び診療を受けられました患者さんの状況については以下のとおりです。

【年末年始期間中の高次救急センターの運営体制】

センター医師の勤務体制は、若手の医師を中心とし、救急科医師 1 名と輪番制の医師 1 名の 2 名体制 (24 時間対応)で行いました。また他に、内科系、外科系で1科ずつの輪番制による新患者向けの応援体制を築くとともに、各診療科では重症患者に対し、専門医が駆けつけることができるようバックアップ体制を敷きました。

一方、看護体制においても、処置、点滴注射は、救急センターの場所だけでは対応不可能なため、一時的に病棟のベッド等を借りて対応し、また、この期間中は通常の土・日曜日よりも日勤帯の看護師を1名多く配置し、来院患者の診療処置、看護に当たりました。

検査、薬についても、24 時間体制で放射線技師、検査技師、薬剤師が対応しました。

【高次救急センターを利用された患者数】

今回の年末年始期間中(平成 19 年 12 月 29 日～20 年 1 月 3 日)に本院の高次救急センターを利用された患者さんは合計で 570 人でした。これを 6 日間の一日平均にすると 95.0 人となっています。本院の年間休日平均 73.6 人(18 年度)より、21.4 人多くなっており、このことはこの 6 日間に本院の高次救急センターを利用された患者さんが多かったことを示しております。

なお、この期間中、救急車で搬送された患者さんは合計 17 人となりましたが、前年度より 6 人減少しており、他病院の受入が増えたことによるものと思われますが、救急車で搬送された患者さんの内訳を見ますと、入院を必要としない患者さん(1次救急)が 5 人、入院、手術を必要とする患者さん(2次救急)が 10 人、重症、高度専門医療を必要とする患者さん(3次救急)が 2 人となっており、救急車で搬送された 1次・2次救急の患者さんが 90%近くを占めています。

また、その他(自家用車で来院等)の患者さんは例年より増加傾向にありました。

【診療科別の状況】

来院された患者さんを診療科別で見ますと、小児科が 98 人で最も多く、次いで眼科が 70 人、耳鼻咽喉科が 52 人などとなっています。

高次救急センター利用患者数

(人, %)

月日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日	合 計	
曜日	土	日	月	火	水	木	人数計	割合
患者数	61	88	128	95	103	95	570	
うち 救急車搬送	1	4	4	2	3	3	17	3.0% (救急車搬送÷患者数)
1次救急		2	2			1	5	29.4% (1次救急÷救急車搬送)
2次救急	1	1	2	2	2	2	10	58.8% (2次救急÷救急車搬送)
3次救急		1			1		2	11.8% (3次救急÷救急車搬送)
うち その他	60	85	124	93	100	92	554	97.2% (その他÷患者数)

	1日平均
患者数	95.0
うち 救急車搬送	2.8
1次救急	0.8
2次救急	1.7
3次救急	0.3
うち その他	92.3

参考

	18年度			17年度		
	6日間計	割合	1日平均	6日間計	割合	1日平均
患者数	564		94.0	582		97.0
うち 救急車搬送	23	4.1%	3.8	33	5.7%	5.5
うち その他	541	95.9%	90.2	549	94.3%	91.5

担当 公立大学法人福島県立医科大学附属病院
事務部病院経営グループ参事 小野俊六
電話 547-1044 県庁内線 181-3011